

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



靈丘自然植物園でハギを植える。自然の植生をとりもどす手助けとなる

Contents

●会員総会のお知らせ	P 2
●黄土高原ニュースフラッシュ	P 3
●2000年春・黄土高原	P 4
●チコロナイ	P 7

2000.5

73

緑の地球ネットワーク 第6回会員総会のお知らせ

そろそろ会員総会の季節です。昨年度から今年度にかけて、資金調達や会員拡大に困難を感じることが多いのですが、会員のみなさまから元気とアイデア、はたまた叱咤激励をいただいてがんばっていきたいと思います。

シンポジウムでは、靈丘自然植物園の建設、地球環境林センターの拡張と着々とひろがる大同での協力の最新状況を報告し、みなさんのご意見・ご質問をうかがいたいと思います。お忙しいとは存じますがぜひご参加ください。

GEN講演会

森林が環境に果たす役割

熱帯林の乱開発はなぜいけないのか、黄土高原の緑化は本当にいいことなのか、森林はなぜ大切なのか？ 森林の役割を知れば、答えがわかるはずです。

世界各地の森林をフィールドに調査研究をつづけてこられた小川房人さんには、豊富な知識と経験にうらづけられたお話をうかがいます。

- 日時：5月23日（火）18時30分～20時30分
- 場所：アピオ大阪（TEL. 06-6941-6332、JR環状線、地下鉄中央線「森の宮」駅徒歩5分）
- 講師：小川房人さん（GEN顧問・大阪市立大学名誉教授）
- 参加費：700円
- 問合せ：GEN事務所まで

使用済みテレカ回収 ご協力ありがとうございます

気軽にできる活動として、たくさんの方にご協力をいただいている使用済みテレカ回収ですが、99年度は合計129,60枚、498,000円となりました。苗木代として使わせていただきます。

これまで、オレンジカード、ハイウェイカード、各私鉄のプリペイドカードなども回収の対象としていましたが、

会員の方にはあらためて案内をお送りします。また、GENの会員総会は一般に公開しています。会員以外で傍聴をご希望の方は、あらかじめGEN事務所までご連絡ください。

* * * * *

緑の地球ネットワーク第6回会員総会

- 日時：6月17日（土）13時30分～16時30分
- 場所：大阪市立弁天町市民学習センター（JR環状線「弁天町」駅北出口、地下鉄中央線「弁天町」駅2A出口か

今後はテレカのみを対象とします。折れ、キズ、汚れのないものをお送りください。よろしくお願ひいたします。

“種イモカンパ”に ご協力ください

昨年、干ばつ、虫害にみまわれたうえに、11月に地震に襲われた大同県・陽高県の農村への緊急カンパに、たくさんの方にご協力いただき、ありがとうございました。

現在は来春までの予定で“種イモカンパ”を募っています。種さえとれなかつた不作をチャンスに変えようと、優良種の種イモなどを導入するためです。ご協力をお願いいたします。

〈郵便振替〉
口座番号 00940-2-128465
加入者名 緑の地球ネットワーク
〈銀行振込〉
三和銀行阪急梅田北支店普通5284852
口座名 緑の地球ネットワーク

緑の募金 北京に「日中友好の森」

国土緑化推進機構による緑の募金中央事業の1つとして、北京林業大学妙峰山教学実驗林場の一角に「日中友好の森」を建設することになりました。

4月9日、中国側からは北京林業大学の朱金兆校長と林場関係者、梁從誠

ら直通通路で「ORC200」中央のエレベーターで7階へ。TEL. 06-6577-1430)

【第1部・シンポジウム】

“黄土高原は今～200年を迎えて”（仮）

●時間：13時30分～15時20分

●パネリスト：立花吉茂（GEN代表）、遠田宏（GEN顧問）、上田信（GEN世話人）、高見邦雄（GEN事務局長）

【第2部・会員総会】

●時間：15時30分～16時30分

* * * * *

終了後、懇親会を予定しています。総会のご案内といっしょに詳細をお知らせしますので、会員以外で参加ご希望の方は、6月2日までにGEN事務所までご連絡ください。

会長を先頭とする環境NGO自然之友のメンバー、日本側からは国土緑化推進機構の小森清美常務理事、北京在住の藤沢晴海夫妻と相馬昭男さん、そしてGENの高見事務局長が参加しました。代表のあいさつのあと、記念碑の除幕をおこない、ほぼ100人の参加者がイチョウ、マツ（白皮松、美人松、華山松）などの大苗を植えました。

この活動は北京に留学している1人の老日本人の発起によるものです。

助成が決まりました

◆経団連自然保護基金……「黄土高原における森林再生活動」に350万円の助成が決まりました。

◆環境事業団地球環境基金……「中国山西省大同市における多様性のある森林再生計画」に310万円の助成が内定しました。

ご住所、メールアドレスの 変更ご連絡ください

新年度のはじまりにともなって、住所、電話番号、メールアドレスなどに変更のあった方は、恐れ入りますがGEN事務所までご一報ください。特に、eメールはかなりのエラーがでています。「そういうえばときどきメールが届いてたのに最近きてないな」という方は、メールでご連絡ください。

黄土高原

ニュースフラッシュ

●今年も異常気象？

3月16日から4月29日まで、ちょっとあいだを抜けましたが、大同に滞在しました。このかん、雨らしい雨は1度も降りませんでした。

そして平年に比べて2週間は春の訪れが遅いのです。帰るころになって、やっとアンズの花が咲きはじめました。

乾燥と低温といえば、風砂です。3日に1回は吹きつけたでしょう。突風が吹き、砂を巻き上げるのをみて、それに背をむけ、目をつぶってやりすごせるレベルはかわいいものです。どの方向をみても砂だらけで、目を開けられない状態が2分、3分とつづきます。しゃがみこんで、通り過ぎるのを待つかありません。

車で移動中、視界がほぼゼロになり、フロントガラスに吹き付けられる砂が不気味な音を立てました。運転手があわてて急ブレーキを踏みました。

北京でも、今年は風砂が4月末までに12回も襲来し、空港が封鎖されたりしました。「緑化の意味がわかった」と口々に話しています。

去年があれほどの旱魃だったので、なんとか今年はいい年になってほしいのですが……。

●環境林センターの拡大

3月17日、協力拠点の環境林センターに着くと、とんでもないニュースが待っていました。センター周囲の果樹園で買収計画があり、コークス工場ができそうだ、きょうの午前中に契約の運びだ、というのです。

センターは入口をふさがれますし、環境も悪化するでしょう。5年間の積み上げが崩れてしまいます。

村の幹部たちも困りぬいています。一帯は野菜生産地であり、大打撃をうけます。「安くいいから、使用権を買ってもらえないか」というせっぱつまた申し入れでした。

遠田宏顧問と相談し、立花吉茂代表にも電話をかけて、20年の使用権を買うことにしました。20haの1等地が26.5万元（350万円弱）で、分割払いも可能ですから、金銭的な負担はそれほどではありません。

問題はその活用と運営です。20haで、ほんとに広いですよ。奥行きが820m、幅は広いところ300m以上あるんですから。5年前のスタート時点が3.5ha、手狭になって去年から6.5haに拡張したものが、一挙に3倍です。

中国は昨年から異様なまでの緑化熱で、苗木の需給が逼迫し、値上がりしています。苗木の生産に多少の経験を積んだ関係者たちは、「規模の拡大で自立の条件ができた」と前向きに受け止めています。新疆ポプラ6万本の挿し木は、新しく拡大したところではじまりました。

1haずつ個人やグループで共同で持っていたら、なんてことはできないものでしょうか。

●被災地の小学校の再建

大同県と陽高県の県境で昨年11月、地震があり、被害をだしました。日本大使館の杉本信幸公使に泣きつき、外務省草の根無償資金で、2つの学校の再建を支援してもらうことになりました。

その調印式に、杉本公使本人が出席してくれたのです。夜行列車で4月23日早朝に大同に着き、その夜の夜行列



地震被災地ではテント生活がつづいている

車で北京に帰るという強行軍です。そのあいだに大同県の被災地の農家と学校を慰問し、農家で昼食をとり、遇駕山の植林地を視察し、私たちの環境林センターをみて、夜は調印式と宴会、というスケジュールでした。

えーっ、移動に時間がかかるのに、こんなことができるの？ 車に同乗して、疑問は氷解しました。沿道数百mおきに公安が立ち、他の交通が遮断されたなかを、ノンストップで突っ走るのです。「副総理級の歓迎」ということでした。

調印式には大同市のNO.1からNO.4までと省の幹部、中華全国青年連合会国際部の幹部たちも出席しました。

草の根無償出るのは2つの学校で400万円、不足分150万円弱を私たちで集める必要があります。震災からの復興を、民と官が協力してオールジャパンで支えるのは、とてもいいと思います。みなさんのご協力をお願いします。

今春の全ジャスコ労働組合、東北電力総連、ディズニーランドの労働組合のツアーにも、被災地の村を見舞って、村の人たちと交流してもらいました。

（高見邦雄）

夏の黄土高原ワーキングツアーご案内

今夏は、GENのツアーとしてはひさびさに大同市北部を訪れます。万里の長城にのぼり、村人といっしょに補植などの作業に汗を流しませんか。

●日程：7月27日（木）～8月3日（木）

●費用：一般＝19万円、学生＝18万円（国際航空運賃、中

国国内での交通費／食費／宿泊費、ビザ取得手数料、GEN年会費含む）※中国国際航空利用、関西国際空港発着。※成田空港発着は12,000円（航空運賃の差額）高くなります。※北京もしくは大同で合流ご希望の方はご相談ください。

●定員：30人

●申込み締切り：6月27日（定員に達し次第締め切ります。）

●問合せ・申込み：GEN事務所まで

2000年春・黄土高原

ツアー参加者それぞれの思い

この春に黄土高原を訪れた人は、日本からのツアーや北京からの視察など全部で130名を越えました。そのなかから、全ジャスコ労組、東北電力総連、OFS（東京ディズニーランド労組）の各ツアーパートナーに感想を寄せていただきました。

また、GENのツアーには、上田みづかちゃん（1歳半）がご両親とともに参加し、農村の女性たちの「かわいい攻撃」にはたじたじでしたが、元気に日程をこなして無事帰国。当分はやぶられそうにない最年少参加記録となりました。ツアーに参加した宮下さんが帰国後すぐに送ってくれた詩には、黄土高原の未来をになう子どもたちへの願いがこめられているようです。

協力活動5年目に思う

高梨 英樹（全ジャスコ労働組合中央執行委員）



陽高県守口堡村の小学校付属果樹園で

私たちもこの活動に参画をさせていただき早いもので5年目を迎えました。過去の参加者も130名を越えました。昨年は私どもの結成30周年記念事業と

して靈丘に小学校を寄贈しました。また国内においても小学校建設資金の一部や文房具などの収集をおこないました。何か少し大きなことをやり遂げた気持ちになっていました。

第6回の今年は4月7日～12に実施し、またいろんなできごとがありました。

守口堡村に立ち寄った際、私たちの仲間、第1回のツアーが植えた果樹園で作業をする時間がありました。アンズは背丈の2倍ほどになり、村の人びとの努力で大きく成長していたのです。私たちの仲間が植え、村の人び

とが大切に育ってくれ、また今回訪れることができた。それぞれの点が一つになった瞬間でした。また昨年末に地震で大きな被害を受けた村も訪れることができました。もちろん高見さんからお聞きしていたのですが、やっぱり実際に子どもたちが風や砂が舞いこむ仮設テントで授業を受けている姿をみると考えさせられてしまいました。

最後の歓送会で参加者は「活動を続けるためには…」また「大同にやり残したことがある」など単なるボランティアでない緑化協力に前向きな思いを語ってくれました。私たちは何が出来るのか、個人として…組織として…もう一度考えてみるよいきっかけになったツアーであったと考えています。

大同で出会った笑顔

宮下 哲郎（OFS 執行委員）

私たちOFS（Orientalland Friendship Society）は、東京ディズニーランドを運営するオリエンタルランドという会社の労働組合で、今回初めて黄土高原ワーキングツアーに参加しました。

本当はこの場で自然環境の問題についての感想を書かなければいけないのかもしれません、「パークに訪れるゲストの笑顔が見たくて」この仕事を選んだ私たちですから、交流を通じて短い間に多くの人たちと知り合ったこと、人と人のふれあいから感じたことについて、少し話したいと思います。

中国では本当にたくさんの人たちに出会いました。作業を通じて、交歓会の中で、小学校で、数えきれない笑顔に接し、あっという間に別れがきて…喜びや寂しさを短い間に胸いっぱい詰

めこみました。参加者の1人が帰国後にこんなコメントを寄せてくださいました。

「何よりも幸せを感じました。旅行に行ける幸せ、みんなに会えた幸せ、涙に意味がある幸せ、ここに生きている幸せ…人との間に感じる何かが幸せの種だと感じました。早く沢山の花が咲けばいいなと思っています。」

そうです。私たちは大同で、なんだかとても幸せな気分になれたのです。

私たちは東京ディズニーランドを運営し、多くのゲストに幸せを提供してきました。でも、大同に来て、幸せの定義をあらためて見つめ直すことができたと思います。

大同の子どもたちはディズニーラ

ンドどころか、遊園地というものの存在さえ知りません。しかし、大地の中でたくさんの子どもたちが、のびのびと遊んでいる姿をみたとき、世界中どこでも子どもたちの目の輝きは一緒なんだな、と感じました。そしてその目の輝きは、「ものの豊かさ」とは違う世界から放たれているということ。

今、参加したメンバーはそれぞれ元の生活に戻りました。



ツアー参加者の笑顔から「幸せな気分」が伝わってくる



でも参加者一人ひとりが、今、目の前にある幸せを感じながら、パークを

訪れたゲストに夢を与えていたはずです。遠く大同の空を思い出しながら。

植樹後のメンテナンスの重要性を認識

大越 金次（東北電力総連ユアテックユニオン執行委員長）

この度は、緑の地球ネットワーク(GEN)の緑化活動に参加させていただきありがとうございました。

私たちの組織は、過去7年間社会貢献活動の一環として中国内蒙自治区へ「緑の協力隊」と称して植林活動をおこなってきており、一定の知識を得ていました。しかし、今回のツアーではGENが単に環境改善を目的とした植林に留まらない、奥の深い活動をおこなっていることや、緑化事業を通して中国のさまざまなどを幅広く理解できましたし、参加者自身の人生観をも問われるような意義深いものでした。

特にこれまでの経験は植林作業を中心であったことから、植林後のメンテナンス等については関心の薄かったところで、緑化事業のあるべき姿を見たように思う一方で、もう少し植林作業があつても複雑な思いもあります。

また、緑化事業と地元の人びととのかかわりを大切にするGENが、沙漠ではなく黄土高原を選択し、努力されていることの意義が、わずかながら理解できたと思っております。

ツアー参加前にGENのホームページから、上田信著の「森と緑の中古史」を知り一読いたしました。その中では、春秋時代以前の黄土高原は「自然を題材とした詩が詠まれ、当時は緑豊かな大地であった」とされており、文明の発展が無秩序な開発をすすめ、現在の沙漠化を招いたのではないかと私なりに解釈いたしました。

今回、実際にこの地でさまざまな体験をするなかでこの本を思いだし、日本でも自然を題材に詩を詠む環境が少なくなっているのではないか、このまま快適な生活のみを追及していく良いものなのか、そんなことが思いうかぶ



植樹作業はちょっともの足りなかつたけれど……

ワーキングツアーでした。

私たち「緑の協力隊」23名はトラブルもなく、有意義な体験をさせていただきました。これもひとえにお世話をいただいた高見事務局長、全日程随行いただきました遠田先生、ならびに私たちの隊員に同級生がいたというGEN事務局の富樫さんのおかげと感謝いたしますとともに、今後益々のご活躍をご祈念申し上げます。

〈小さな手〉

宮下 利江（会社員）

昨日泊まった馬さんの家の小学生桂葉が
にこにこ笑いながら洗面器に入った水を運ぶ。

山の斜面に見えるのは
村の大達が子どもの将来を託す杏の木々。
大人たちの願いを糧に、しっかりと大地に
根を張り、枝をひろげる。

村の老人が土を掘り、杏の苗を支える私。
私達の動作をじっとみつめる村の若者たち。
桂葉は掘り起こされた土に向かって
洗面器の水を勢いよく注ぐ。

まだ、2歳にもならないみづかちゃんは
手のひらよりも大きな干し杏の実を両手で握りしめ
小さな口いっぱいに杏をほおばり、声をたてて笑う。

桂葉は杏の木の育て方をまだ知らない。

けれど、桂葉の手は苗に水を注ぐ感触を、
水が土に染み込む音をずっと記憶してゆく。

みづかちゃんは、まだ「杏」という字を読めない。
けれど、杏の実はみづかちゃんの舌に、鼻腔に、
指先に、身体のすべてに記憶される。

桂葉が私の年齢になるころ、この村の杏は豊かに茂るだろう。
みづかちゃんが村の老人の年齢になるころ、この村の子ども達は
村から見える山々を緑の絵の具で描くことだろう。

それを実らせるのは、まだ何も知らないけれど
しっかりと杏を記憶したあなたたちの小さな手。
まだ、出会ってもないけれど
いつかついで歩くはずの
あなたたちの小さな手。

村の老人が私に杏の苗を握らせたように、
私は小さな手のひとつひとつに
杏の種を渡してゆこう。

植物を育てる (7)

立花 吉茂 (GEN代表・花園大学教授)

●苗を育てる

スギやヒノキのような造林樹種は苗を購入することもできるが、自然を復元させるための野生樹は種子を集めから始めなければならない。それについては、前処理とともに前号に書いたのでここではふれない。苗の育成は鉢育苗と苗畠育苗とがある。また、最初鉢に蒔いて幼苗のときに苗畠に移植する方法もある。ユーカリやモクマオウのように最後まで鉢でないとだめな種類もある。このような種類の2~3年生のやや大きい苗を育てるのはなかなかやっかいで、縦に長い鉢が必要になる。ビニール製、パイプ、土管、竹筒などが使われる。

●直蒔き法

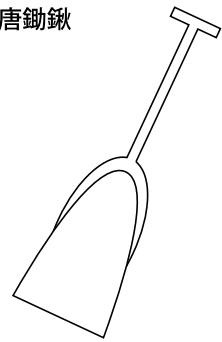
まず苗畠を選ぶ。排水の良い、軽い土壤が良い。必ずしも肥沃である必要はない。やや瘦せた土の方が苗畠には

向いている。

畑を浅く耕し、1m幅前後の低い畝をたてて、縦4列に浅い溝をつけて1~2cm間隔くらいに種子を落とし、砂混じりの軽い土で浅く覆土する。覆土の厚さは種子の直径くらいで、深くても2倍くらいまでとする。覆土したら、敷き藁をおこなって、その上から灌水する。敷き藁が風で飛んでしまうのを防ぐために縄を張って押さえる。発芽しはじめたら、敷き藁を除く。その後、混み合った部分の間引きをおこない、翌年早春に床替えをおこなう。スコップなどで掘り返して苗を揃え、1m幅の畝に2列に30~40cm間隔で植える。灌水後マルチング(敷き藁)で雑草の発生を防ぐ。翌年定植用の苗ができるが、もう1年置く場合には、もしだけ大きくなりすぎることが想定されたら、断根をおこなう。断根の目的は植え傷

み防止と、大きくなりすぎて苗が細長くなったり、形が乱れたりするのを防ぐためである。唐鋤き鍬かスコップを斜めに苗の

唐鋤鍬



下へ押し込んで直根を切る。移植困難な樹種については、もちろん断根は危険であるから前もって植え傷みの程度を調べておくべきである。注意すべきことは、育苗期間は4年までであって、あまり長く苗畠に置くと、苗が大きくなりすぎて取り扱いに不便だけでなく、活着率も悪くなり、良いことは少しもないから、4~5年も放置せねばならないときは手間はかかるがもう一度移植する必要がある。造園業者の植え溜めは、何度も移植したものなのである。

関東ブランチからのお知らせ

【6月の関東ブランチ交流会】

●日時：6月10日（土）15~18時（そのあと懇親会）

●場所：立教大学池袋キャンパス・9号館（池袋駅西口、徒歩10分）

●内容：「黄土高原：Q & A」

みなさまから寄せられた、黄土高原・緑化・GENなどに関する質問に答えながら、緑化活動の理解を深めてもらいたいと思います。

※参加される方、されない方を問わず、質問をお寄せください。当日、上田さんが回答します。参加されない方には、個別にお答えしますので、回答をお伝えする方法もお知らせください。

※質問の宛先、問い合わせ先

〒171-8501 豊島区西池袋3-34-1 立教大学文学部 上田信宛 eメール：
ueda@rikkyo.ac.jp FAX. 03-3985-4790

* * * * *

【緑化リーダー養成講座】

地球の環境について、緑化ボランティアについて、身近な山について、一緒に語らい、勉強しませんか？ 部屋の中で過ごすだけではもったいない！ 実際に林にはいって、植物に触れたり、観察もしましょう。思いっきり五感を働かせ、身体を動かし、頭も使う刺激的な週末になることうけあいです。

参加資格は問いません。自然が好きな方、人間が好きな方、参加をお待ちしています！

●日時：6月2日（金）19時~6月4日（日）

●場所：八王子大学セミナーハウス（JR八王子駅・京王線北野駅からバス、東京都八王子市下柚木1987-1）

●費用：GEN会員 15,000円（非会員の方は、GEN年会費社会人12,000円、学生3,000円が別途必要）

●申し込み：往復葉書で立教大学文学部 上田信まで（住所は前記）

往信ウラ……申込者の氏名・性別・住所・電話番号を記載して下さい。

5月24日（水）締め切り。定員25名。先着順。

●問合せ：電子メールかファックス（前記）で上田まで（電話はご遠慮ください）。折り返し連絡します。

◆ ◇ ◆ ◇ ◆ ◇ ◆ ◇ ◇

★テレビ番組のお知らせ★

上田さんがNHK教育テレビの番組で講師をつとめ、GEN提供の「恒山の写真」を使用しています。内容は歴史教育の番組ですが、上田さんの講義を聞いてみたい方、ぜひご覧ください。

教育セミナー「歴史で見る世界」

「ユーラシアの東西を結ぶ①～モンゴル帝国～」（NHK教育テレビ）

講師 立教大学教授 上田信

放送 6月26日（月）23時30分~24時

再放送 6月27日（火）14時30分~15時

「チコロナイ友の会・関東」の立ち上げ 順調にすすむ

4月8日に東京で、貝澤耕一さんをまねいて、ナショナルトラスト・チコロナイの運動のお話を聞き、今後の関東での活動の相談をする会がもたれました。25人の人があつまり、活発な意見交換がなされました。

関東在住でこの運動に関心のある方々に「チコロナイ友の会・関東」にぜひ参加していただきたいと思います。

【連絡先】

高野 (044-855-7241馬場 (03-3638-0530)

“チコロナイ学習会” 今年度の計画

4月の学習会で今年度一年間のおおまかな計画を立てました。皆さんふるって参加しましょう。

○5、6、7月 アイヌ文様の刺しゅう
○9月 夏の現地宿泊研修会な

どの報告

- 10月 アイヌ民族料理
- 11月 アイヌ民族問題の学習
- 1、2月 アイヌ文様の木彫
- 3月 1年間の反省

“チコロナイ” イベント案内

「チコロナイの森」の散策

- 日時：5月28日（日）11時20分～15時30分
- 集合二風谷、資料館前バス停で集合・解散（札幌からは、09：10札幌駅前発の道南バス特急ひだか号が便利、片道2,090円。帰りは二風谷発15：37、札幌駅前着17：50）
- 参加費：500円（会員、寄付者は300円）
- 弁当、飲み物などは各自持参
- 問い合わせ・申し込み先：
チコロナイ友の会 武田繁典
- 締切り：5月21日（車の手配などの準備のため厳守のこと）
※車でこられる方、大歓迎です。
※前夜（27日）に宿泊を希望される方はご相談ください。武田宅で5名までなら可能です。

夏の二風谷現地宿泊研修会

- ★子供キャンプ（4泊5日、8月初旬）
- ★ワーキングツアー（5泊6日、8月18日～23日）
いずれも詳細は未定です。参加希望者の状況、要望にあわせて、計画をたてます。早めに「チコロナイ友の会」武田までご連絡ください。

【チコロナイ関係連絡先】

“チコロナイ” 関連のお問い合わせ・お申し込みは下記までお願いします。学習会などのお問い合わせはそれぞれの欄の問合せ先にご連絡ください。

『ナショナルトラスト・チコロナイ』

〒055-0101北海道沙流郡平取町二風谷31-3 貝澤耕一方 TEL. 01457-2-2089 FAX. 01457-2-3991

- 寄付金、年会費（2,000円）の送付先
郵便振替 00900-2-52024
加入者名「チコロナイ」

ne.jp

- 年会費（2,000円）の送付先
郵便振替 00990-2-157449
加入者名「チコロナイ友の会」
または、「チコロナイ友の会」事務局・武田まで、切手、現金または郵便局の定額小為替を郵送してください。

『チコロナイ友の会』

〒055-0101北海道沙流郡平取町二風谷68-9 武田繁典方 TEL./FAX. 01457-2-2122 E-mail : yyn01123@nifty.

チコロナイのホームページ

<http://homepage1.nifty.com/tkd-hp/main.html>



第53回チコロナイ学習会

- 日時：5月27日（土）15時～17時
- 場所：大阪市立弁天町市民学習センター（JR環状線「弁天町」駅、地下鉄中央線「弁天町」駅徒歩5分、TEL. 06-6577-1430）
- 内容：春の植樹の報告、アイヌ文様の刺しゅう
- 参加費：200円+カンパ
- 問合せ：チコロナイ友の会（勝山 0756-27-5390）
- ★刺しゅうの材料は実費でおわけします。初めての人も、1回だけの飛び入りも大歓迎です。

チコロナイアイヌ語講座

～いやでもわかるアイヌ語～

第6期第3回

- 日時：5月27日（土）13時～15時
- 場所：大阪市立弁天町市民学習センター（Tel. 06-6577-1430）
- 資料代：第6期（6回）分で1,000円
- 問合せ：平石清隆（TEL. 0745-23-5627）
- ★『エクスプレス・アイヌ語』（中川裕、中本ムツ子著白水社）の16をやります。1回だけの飛び入りも大歓迎です、どうぞ。（200円）





森を語れる人になろう 市島町・森林講座

この講座では、森林を育成林、里山林、天然林の大きく3つに分類し、それぞれの目的に沿った森林づくりの活動を実践を交えながら学びます。

●日程：春の編 5月27～28日

夏の編 7月15～16日

秋の編 10月14～15日

冬の編 3月3～4日

●宿泊：市島町立神池寺会館

●参加資格：18才以上（保護者同伴の場合は18才以下でも可）

●募集人数：15名／各回

●参加費：8,400円／各回（1泊3食、保険、税等）

●締切り：各回開催日の1週間前（先着順）

●主催：（財）神戸学生青年センター
森林講座実行委員会（〒657-0064
神戸市灘区山田町3-1-1 TEL. 078-

851-2760FAX. 078-821-5878-mail
:green-w@po.hyogo-iic.ne.jp)

●協力：市島町森林組合、日本野外生活推進協会

★主なプログラム：林業体験、森の観察会、ビオトープ活動など

土佐小夏をどうぞ

今年も小夏の季節がやってきました。
初夏の味覚をお楽しみください。

◎小夏（低農薬有機栽培）

L・M混 5kg 3,800円

※送料別途。関西630円、関東840円
(20kgまで)。

※出荷は5月下旬まで。

●お申し込みは田中隆一さんまで

〒781-7412高知県安芸郡東洋町甲浦
TEL/FAX. 0887-29-2500

※売上げの一部をGENにご寄付いた
だいているので、ご注文の際は
「GENの紹介」とひとこと添えてく
ださい。

編集後記

ちる花はかずかぎりなしことごとく
光をひきて谷にゆくかも……数ある桜

の歌のなかでも大好きな歌です。散る花を詠んでいるのだからさびしいはずなのに、目に浮かぶ光景は透明感に満ちて華やかでさえあります。すいぶん前に新聞のコラムでみてから、毎年桜のころになるとこの歌の光景を思い、歌そのものをきちんと思い出せずに悔しい思いをしていました。つい最近、上田三四二の作と知りました。

春のワーキングツアーカラ帰ってくると、いつもなら散りかけの桜が今年はまだ3分咲きでした。ちょっぴり得をした気分で、柄にもなく歌などひっぱりだした次第です。

春の訪れが遅かったのは日本だけではないようです。大同でも風砂がひどく、アンズの開花も遅れました。これから天候が順調だといいのですが、なんだか心配です。 (東川)

